

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（1月定例会）
開催日時	平成23年1月21日（金曜日）午後3時から午後5時15分
開催場所	保谷庁舎3階 第2会議室
出席者	委員：濱崎議長、松嶋副議長、岡村委員、小川委員、倉島委員、齋藤委員、白木委員、須永委員、本田委員、宮崎委員（五十音順） （欠席：稲葉委員、本領委員、山田委員） 事務局：神田係長、山中主事
議題	(1) 提言について (2) 委員研修会について (3) その他 社連協第4ブロック記録集の原稿について
配布資料	1 提言策定に向けたこれまでの取り組み 2 岸裕司氏プロフィール 3 第4ブロック活動報告（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>平成22年12月定例会議の会議録を1箇所訂正後、承認する。</p> <p>(1) 提言について</p> <p>○議長： 提言の検討に向けた前回の報告後、調査に行かれた方はいらっしゃいますか。</p> <p>○全委員： 今回は調査、報告事項なし。</p> <p>○議長： 提言のまとめ方について、事務局からお願いします。</p> <p>○事務局： 資料1に提言策定に向けたこれまでの取り組みをまとめた。整理したものをもとに、方向性を出していただきたいと思う。提言テーマについては、「全員参加の地域づくりをめざして」という大きなテーマだったが、委員それぞれの地域の様子とか活動状況など、いろいろなことを話し合ってきた。結果的には、地域づくりを進めるために地域のネットワークづくりに着目して考えてみましようということになったように思う。この点に注目して第4ブロックの研修会内容も設定し、その後の各委員の調査活動も進めら</p>	

れてきたと思う。これまでやってきた事をどのように提言の中に盛り込んでいくかということだが、ブロック研修会での白木委員のお話にもあったように、活動事例が地域づくりにどのようにつながっているかというネットワークの形成のタイプを参考にしながら見ていくと良いのではないだろうか。そういったものを手がかりにしながら、各委員の方に調べていただいた地域活動について、評価と課題という視点をもって整理していくと良いのではないかと思う。

○議長：

資料1にあるように、具体的な地域づくりを、地域のネットワークづくりに着目して考えていく方向でよろしいでしょうか。

○委員：

今までの活動については、資料3の第4ブロック活動報告（案）にうまくまとめられている。これはとても参考になると思う。

○事務局：

材料はそろっていて、それをどのようにまとめていくかだと思う。論旨を絞って、文章を組み立てていく必要があると思う。まとめるにあたって、皆さんで分担して書いていくのか、起草委員を決めてまとめていくのか、いろいろな方法があるので、その点も話し合っていたきたいと思う。

○委員：

提言に何を記していくかということだが、全員参加の地域づくりをめざすために、地域のネットワークをつくると良いでしょうということをメインにする方法もあるし、担い手づくりと新しい指導者像について話を進めていく方法もある。ネットワークづくりの事例は持っていて、それについての評価は今までの議論の中で行っている。そのあたりはまとめやすいと思う。もう少し一歩進んで、人の問題、具体的に言うと、今後教育委員会とか行政で〇〇養成講座をやったらどうかということまで盛り込むのは議論を深める時間も含め、難しいのではないだろうか。最後の課題のところでも少し触れられれば良いかと思う。そうすると、どうもネットワークが大事なのではないかということになるだろう。二部構成くらいにして、ネットワークの事例について提言する内容にしたらどうだろうか。ネットワークといっても、パソコンのネットワークなのか、インターネットの話なのかと色々あるので、ネットワークの解説をするような章を設けたりするのも良いと思う。評価や課題、地域についての色々な意見は、箇条書きでも良いのでどんどん委員で出していったら、それをまとめていけば良いのではないか。

○委員：

調査活動をして思ったのは、学校とうまくいっている事例では、学校側へのクレーム等はないが、その一方で、学校に対する切実な訴えもある。そういった声をまとめていきたい。学校と学校施設開放運営協議会の間に立って調整するコーディネーター的な人が必要だと感じた事例もあった。これらを提言に盛り込んでいく必要があると思う。

○委員：

コーディネーターと担い手は別のものと考えて良いのか。

○委員：

コーディネーター、イコール担い手であればなお良いと思う。

○委員：

提言にコーディネーターの養成ということを盛り込む場合、なぜコーディネーターが必要なのかということで、それぞれ地域活動を調査したときに、色々なタイプの地域があって、それに対する問題点を解決するためにはコーディネーターが必要だという方向にもっていったら良いのではないか。

○委員：

西東京市にコーディネーターはいらっしゃるのですか。

○事務局：

コーディネーターは、その言葉が固有の機能や職業を表すものではない。コーディネーターの機能を果たしていても、名称が指導員という言われ方をしている場合もあるし、福祉分野でも使われているようである。一般的にはつなぎ役をしている人を呼ぶ場合が多いのではないかと思う。

○委員：

カタカナ語が乱立している。コーディネーターも、必要性があるが、それが何なのか、どういう資質、能力があるのか等は統一されたものがまだない。地方分権の時代なので、国が国家資格として整えていくということはないだろう。制度とかを待たずに中身が進められている。結局、それぞれのところで独自に進められているようである。行政は把握していないが、西東京市のどこかで、コーディネーターと言われるような役目を果たされている人がいるかもしれない。

○委員：

コーディネーターは何らかの資格があってお金をもらって指導にあたる方というイメージがある。それに対して担い手というと、地域のことをよく知っていて、地域を支えている人というイメージがある。担い手という言葉を使うほうが、地域から選ばれた人というイメージがあり、よりわかりやすいように思う。

○委員：

しらうめネットワークの高橋さんは、担い手であると同時にコーディネーターのような役割もしていると思う。

○委員：

そのような方がどの地域にもいれば良いが、高橋さんも後継者のことを心配していらした。高橋さんは活動を負担に思っていないので続けられるのだと思う。生きがいとなればよいとおっしゃっていた。そういう担い手をどう育てるかというのが課題となると思う。

○委員：

コーディネーターというとプロフェッショナルな感じがあって、特定のところで関与して調整しているというイメージがある。我々が探しているのは担い手のほうではないか。コミュニティを支えている人材は、担い手なのでは。

○委員：

他市の例になるが、長年PTA会長を務めた方が、校長先生からコーディネーターを依頼されたという話を聞いたことがある。学校を熟知しているということで、ボランティアで活動されてきた方を指名したという例である。

○委員：

昨年11月の社会教育研究大会の記念講演で話のあった渋谷ファンインが印象に残っている。そこに通っていた子どもたちが成長して、次に通ってくる子どもたちの面倒をみるというかたちがとてもすばらしいと思った。

○委員：

担い手というと、何かお手伝いをする人というイメージがある。野球チームの例であるが、卒業生が手伝いに来てくれる。特別働きかけたわけでもないのに、部活が休みだからと言って、子どもたちの面倒をみに来てくれる。そういうことではないか。

○議長：

担い手の人が、負担に感じない程度に活動できると良いと思う。地域づくりの担い手をどのように育てていくかが課題になると思うが、提言のまとめ方について意見を出していただきたい。

○事務局：

提言のまとめ方だが、一つの方法として、皆さんの書きたいことを出していただいて、それらをまとめていってはどうか。そのまとめの作業をしていただく方が必要になると思う。

○委員：

聞き取り調査や事業を視察したことを踏まえて意見を出すということは、学校施設開放運営協議会の希望を代弁することになるのか。

○事務局：

具体的に学校施設開放運営協議会が何を希望しているのかということではなく、その背景や課題がどこにあるのかということを見てほしい。

○委員：

全員参加の地域づくりというものに対して、どういう地域を目指しているのか、共通の意識があるのかが問題。安全安心なまちづくりとか、きれいなまちづくりとかいろいろある。市としてのビジョンに合わせるように書くのか。共通の意識がないと、西東京

市の現状も書けないのではないか。

○事務局：

地域づくりそのものにせまってしまうと、非常に大きなテーマになる。地域づくりに社会教育や地域の色々な活動がどのように活かされるか、大事なのかということをおさえていければ良いのではないだろうか。

○委員：

地域づくりは地域住民の連帯というようなイメージなのか。

○委員：

地域の人と人との交流が希薄になっている。地域の中で自分たちができることをしながら連携をとっていこうとする姿勢が大事だと思う。

○委員：

全員参加の地域づくりということは、地域住民の全員が人と人としてつながっているということなのだろう。

○委員：

どういう地域づくりを目指すかということだが、すべての人が地域に関心を持っている訳ではない。そういった人々がどのように関心を持って参加していくのかが問題だろう。ちょっとでも自分にかかわりのあることがあれば、そのきっかけで参加する人も出てくるのではないか。色々な人が参加していけば、担い手の問題も解決していくのではないか。具体的にどのような地域づくりを目指すということではなく、どうすれば全員参加の地域づくりができるのかという観点で考えてみる必要があるのではないか。地域の人々がどのようなかたちでも地域に関われるようにすることが大事だと思う。

○委員：

孤立した高齢者などをどのように地域に結びつけていくかも課題である。子どもたちは学校があったり子ども会があったりするので地域にとけこみやすい。

○委員：

一人暮らしの高齢者を支援する支え隊というボランティア組織もあるようだ。

○委員：

自分の住んでいる地域に抱かれて生きているという意識が持てると良いと思う。

○委員：

理想とする地域はしらうめネットワークなのか。

○委員：

それは各地域によって違うと思う。

○委員：

しらうめネットワークが成功したのは、一番身近な課題である安全安心なまちづくりを目指したからではないだろうか。

○事務局：

一つ課題を解決すると、地域はまた別の課題解決に動き出すと思う。理想とする地域は、それができる力のある集合体であるということだと思う。

○委員：

提言をまとめるにあたって、各々が自分の考えを持ち寄るのは次回の会議までではなく、その前に集まってまとめたほうが良いのか。

○委員：

前に提言をまとめた時は、何回か校正を繰り返したので、ぎりぎりまでかかってしまった。できれば3月くらいまでにはある程度まとめたものができていたほうが良いと思う。

○事務局：

できれば次回の会議の前に集まっていただいて、皆さんである程度内容をまとめていただきたいと思う。提言のボリューム等は特に決まっていないので、お任せする。

○議長：

それでは、2月8日（火曜日）の午前10時に集まって、まとめる作業を行いたいと思う。集まれる人が集まって作業するというにしたいが、よろしいでしょうか。来られない方は、事前に事務局までまとめたものを提出してください。

○全委員：

異議なし。

(2) 委員研修会について

○事務局：

前回の会議で、講師の第一希望となった岸裕司氏に連絡を取り、3月18日（金曜日）の午後2時から開催することになった。岸氏のプロフィールについては資料2を参照していただきたい。公民館運営審議会委員、学校教育の関係者、学校施設開放運営協議会関係者等に広く呼びかけて研修会を開催したいと思う。昨年度の都市社連協のブロック研修会で、岸氏を講師とした研修があったので、そのレジュメも参考にお配りした。自分たちの提言のまとめに向けて参考になる研修会となるよう、今回の研修で聞きたい内容等について次回会議の時に出していただければ講師と調整する。

(3) その他

1 社連協第4ブロック記録集の原稿について

○事務局：

第4ブロック研修会でのけやき小学校としらうめネットワークの事例と白木委員の講

演記録については、研修会記録担当の須永委員と本田委員にご尽力いただき、非常に良い記録ができた。これを読んでいただくと、第4ブロックの発表の様子や白木委員のお話もしっかりまとめていただいているので、非常に役立つ資料になると思う。報告書の原稿締め切りが1月28日（金曜日）なので、内容を確認していただき、気づいた点や訂正があったら、26日（水曜日）までに事務局に連絡をお願いしたい。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（1月定例会）は終了する。

次回会議 平成23年2月18日（金曜日）午後2時から